

Agency for Cultural Affairs, Government of Japan
令和7年度文化庁文化芸術振興費補助金
(地域文化財総合活用推進事業)



泉佐野市重要文化的
景観パンフレット

日根荘 のんびり散策ガイド

中世の景観がのこる荘園遺跡をゆ〜ったりと巡ろう。



寺社仏閣やコスモス鑑賞、登山など…
おすすめスポットをご紹介します！



[Apple]
「変わらない風景～日本遺産・日根荘」アプリ



[Google Play]
「変わらない風景～日本遺産・日根荘」アプリ



泉佐野市
日本遺産公式Instagram



日本遺産
日根荘Facebook



You Tube
日根荘チャンネル



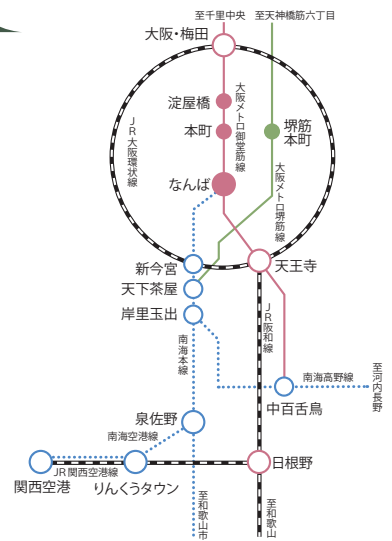
日本遺産日根荘HP

泉佐野市重要文化的景観パンフレット 日根荘のんびり散策ガイド

発行 泉佐野市文化遺産活用活性化実行委員会
〒598-8550 大阪府泉佐野市市場東1丁目1-1
TEL072-447-6766
http://www.city.izumisano.lg.jp
発行日 令和7年10月

アクセス

大阪・梅田駅	JR大阪駅	
大阪メトロ	JR大阪環状線	
約9分	約17分	約19分
↓	↓	↓
なんば駅	JR新今宮駅	JR天王寺駅
南海本線	南海本線	JR阪和線
急行約34分	急行約32分	快速約37分
↓	↓	↓
南海 泉佐野駅		JR日根野駅
↑	↑	↑
急行約10分	快速約12分	
↑	↑	
南海空港線		JR関西空港線
関西空港駅		



鉄道

- ・大阪方面から：大阪メトロ御堂筋線梅田駅～なんば駅～南海電鉄難波駅～泉佐野駅(特急利用で40分)、もしくはJR大阪駅(天王寺駅経由)～日根野駅(60分)
- ・和歌山方面から：南海電鉄和歌山市駅～泉佐野駅(35分)、もしくはJR和歌山駅～日根野駅(35分)
- ・関西空港から：南海電鉄関西空港駅～泉佐野駅(10分)、もしくはJR関西空港駅～JR日根野駅(15分)

自動車

- ・大阪方面から：吹田IC(中国自動車道)～泉佐野北(阪神高速湾岸線 約60分)～泉佐野市役所(約10分)
- ・和歌山方面から：和歌山IC(阪和自動車道)～上之郷IC(20分)～泉佐野市役所(10分)

大阪府初！重要文化的景観に選定 日根荘大木の農村景観



泉佐野市大木地区は、和歌山県との境をなす和泉山脈の豊かな自然に恵まれ、山間部の盆地ならではの地形を活かした伝統的な農村風景が広がっています。また、「国史跡日根荘遺跡」に指定された日根荘由来の寺社やお堂などにより、朗々と歴史が伝えられています。

このような豊かな自然と中世荘園に由来する土地利用のあり方が評価され、平成25年10月17日、「重要文化的景観」に選定されました。この景観は、中世まで歴史の変遷をたどることができ、貴重なもので、地域の大切な財産として次の世代へ受け継いでいきたいものです。



文化的景観とは
文化的景観とは、「地域の人々の生活や生業、風土により形成された景観地で、国民の生活又は生業の理解のために欠くことのできないもの」とされています。文化的景観のなかでも特に重要なものに関しては、国が「重要な文化的景観」として選定します。
※令和7年8月末現在、全国で73件が重要文化的景観に選定されています。

に まい しゅう えん え ず 二枚の荘園絵図



和泉国日根荘日根野村・井原村荒野開発絵図(原本:宮内庁書陵部所蔵・歴史館いずみさの発行図録より転載)

和泉国日根荘日根野村荒野開発絵図(原本:宮内庁書陵部所蔵・歴史館いずみさの発行図録より転載)

開発の様子を克明に描いた絵図

日根荘が成立した文暦元年(1234年)、荘園経営の一番の難題は広大な未開拓の土地でした。そこで九条家は、延慶2年(1309年)に土地調査に着手。その際に作成されたのが、この二枚の荘園絵図です。当時の荘園の開発の様子を克明に描いた貴重な資料で、村の水路やため池、寺社など、現在と比較することで中世の荘園の姿をより深く理解することができます。

まさ もと こう たび ひき つけ 政基公旅引付



政基公旅引付(原本:宮内庁書陵部所蔵・歴史館いずみさの発行図録より転載)

荘園経営のリアルが見える日記

九条家の当主であった九条政基が、日根荘で暮らしに記した日記。時代は武士によって荘園経営が危うくなり始めた戦国時代で、長福寺に滞在した文亀元年(1501年)からの4年間が記されています。火走神社の雨乞いの儀式や日根神社の例祭、軍勢襲来の様子など、村人の暮らしから経営の実態まで、残された日記から荘園に生きた人々の軌跡が見えてきます。

見て、歩いて、 歴史を体感。

時代による変容を遂げながらも、いしえの人々の暮らしや景観が今なお受け継がれている日根荘。

当たり前のように目の前にあるまちの景観の中には、いくつもの歴史の足跡が刻まれています。

中世の歴史と照らし合わせながら、新たな視点で日根荘を見つめ直してみてください。

受け継がれてきたもの

- ◎人が自然に関わることで守られてきた景観
- ◎気候風土に合わせて受け継がれてきた土地利用
- ◎暮らしの中に織り込まれている日根荘の歴史
- ◎文化的景観を守り受け継ぐ大木の伝統的な暮らし

重要な構成要素

文化的景観を構成するものの中で、特に重要なものを所有者の同意を得た上で「重要な構成要素」に設定します。

「日根荘大木の農村景観」では、豊かな自然と日根荘由来の景観を構成する河川や農地、寺社堂、家屋、石積み、道などが設定されています。

大木地区に生息している生き物
自然環境が豊かな大木地区は希少種をはじめ多くの生き物がいます。

- アカハライモリ ●アカザ ●コイムシ
- マジミ ●ミサゴ
- ウキゴリ ○ヌマムツ ○ミヤマサナエ
- ルリボシヤンマ ○ゲンジボタル ○オシオカラトンボ
- カワムツ ○アカシジミ など
- (●印) 環境省 RDB 掲載の絶滅危惧種

旅引付と二枚の絵図が 伝えるまち

— 中世日根荘の風景 —



JAPAN HERITAGE

中世の貴族・九条家の領地だった「日根荘」。二枚の荘園絵図と九条政基が書いた日記「旅引付」には、当時の人々の暮らしが生き生きと記されています。そんな中世から受け継がれる文化や景観が今も残り、令和元年(2019年)5月20日に「旅引付と二枚の絵図が伝えるまち—中世日根荘の風景—」として日本遺産に認定されました。



日本遺産ポータルサイト

日根荘大木の里コスモス園で
いろいろな花を探してみよう！

開園期間：10月初旬～中旬
9月頃に泉佐野市ホームページにて公開します。



ベルサイユ



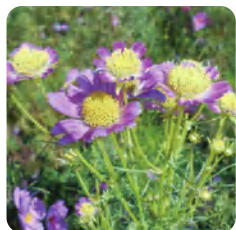
アカツキ



ディープレッドキャンパス



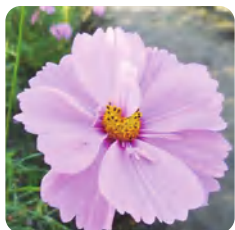
ラジアンズ



レッドイリュージョン



ピコティー



サイケ



センセーション



センセーションホワイト
ホワイトベルサイユ



センセーションピンキー



センセーションタズラ



ソナタホワイト

大木まちづくり協議会

伝統的な農村地域の心を込めたおもてなし

「大木まちづくり協議会」は、大阪府で初めて国の重要文化的景観に選定された美しい集落を守るために発足。「大木地区の豊かな自然や町並み、歴史を次の世代へ受け継ぐために、さまざまな取り組みや活動を行っています」と、顧問の真瀬貴彦さん。景観を維持する日々の清掃にはじまり、NPO法人Waをつなぐが行う希望の光を放つランプの村プロジェクト、休耕田を活用した10月のコスモス園など、人々が暮らしやすくて安全な基盤を作りつつ、町全体がおもてなしの心であふれています。



主催：大木まちづくり協議会 お問い合わせ：泉佐野市教育委員会文化財保護課
TEL 072-447-6766 (平日8:45~17:15) <https://www.city.izumisano.lg.jp/kakuka/kyoiku/bunkazaihogo/index.html>

現代の暮らしの中に中世の景観が色濃く残る
日根荘大木の里コスモス園

奈良時代から戦国時代にかけて、貴族や寺社が領主となって田畑を開拓した「荘園」と呼ばれる土地がありました。

日根荘は、大阪府泉佐野市に広がる中世の荘園遺跡。公家の中でもエリートといえる名家、九条家の領地であったこの荘園は、天福2年(1234年)に立荘されました。宮内庁所蔵の『九条家文書』を中心に当時の様子を伝える文書が数多く残されており、寺社堂をはじめとした建築物、ため池や丘陵などの景観が、中世からほとんど変わらない状態で現存している全国的にも貴重な荘園遺跡です。

その荘園遺跡がある大木地区の自然豊かな環境を皆さんに楽しんでいただけるように、大木まちづくり協議会では、休耕田を活用した「日根荘大木の里コスモス園」を開園しています。



中世の暮らしに思いを馳せる

日根荘の時代には入山田村と呼ばれていた大木地区。ここは中世にまでさかのぼって歴史的変遷をたどれる貴重な地域。九条政基が滞在して綴った『政基公旅引』の舞台でもあります。



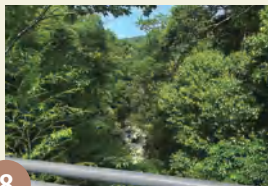
大木火走神社秋祭りの担いダンジリ行事

10月初旬に上大木・中大木・下大木の3つの町会で執り行われる火走神社の秋の例祭です。日根荘の構成文化財の一つで、市指定の無形民俗文化財。だんじりをかつき、ぶつけ合うことから「喧嘩まつり」とも呼ばれ、地方色を色濃く残す伝統行事となっています。かつては泉南各地で見られた「担いだんじり」ですが、現在も残っているのはこの地域だけ。古来より伝わる人々の力強い想いを確実に受け継ぐ、地域色豊かなまつりです。



9 火走神社

日根荘入山田村の中心の神社。中世には雨乞いや芸能が行われていました。



8 恩随橋と榎井川

橋からは、大木地区を貫流する榎井川と中世より同じ場所に流れる水路(菖蒲川と和井)を見ることができます。



7 蓮華寺

境内には、中世の石仏や一石五輪塔等の石造物が残されています。



3 長福寺跡

九条政基が滞在したという長福寺の跡地。現在は大木小学校の稲作体験の場として活用されています。

市内小中学校の給食で提供されています!!



2 大木富士

大木小学校の前から、田んぼに囲まれた一本道が続きます。しばらく進むと大木富士を望めます。



1 毘沙門堂

この堂のある谷筋は五所谷(御所谷)と呼ばれ、南朝の後村上天皇の仮御所があったという。



火走神社おひたき (ホタキ神事)

毎年11月頃に開催。旅引付に記される収穫感謝や厄除けを祈願する神事が、現在も継承され続けています。



6 東ノ池と香積寺跡

上大木の集落が一望できます。棚田に隣接して建っていた香積寺跡は、今も境内とお堂跡が残っています。



5 水間道と石積みと水路

水間道を進み、四足橋の近くには青々とした苔が茂る石積みと水路があります。

私有地もありますので撮影にはお気をつけください。



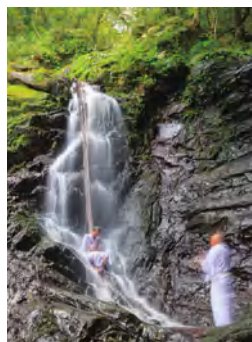
4 円満寺

文亀3年(1503年)、人々が円満寺に集まり般若心経一万巻を購読して祈禱し、一万度参りをしたそうです。



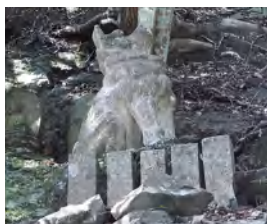
犬鳴山七宝瀧寺

犬鳴山は修験道の霊場であり、大和の大峰山より6年先に開山しました。全国でも有数の行者が今も修行に集まり、行者の滝では滝に打たれる修験者の姿が見られます。特に犬鳴山は女人大峰とも言われ、女性の行者も多く修行されています。



義犬の墓

山名に由来する「義犬伝説」に登場する義犬の墓。最上部に鎮座する義犬の石像は伝説を彷彿させる精悍な表情



修験道の霊場である犬鳴山。日本古来の樹木が茂る犬鳴山、犬鳴溪谷には大小48の滝があります。四季折々に姿を変える雄大な自然の中で、心静かな時間を過ごしてみませんか。

犬鳴山七宝瀧寺 修験道体験もできる！
霊場の美しい溪谷で心清める

滝行体験

七宝瀧寺では毎月第3日曜日に1日修験道体験が行われています。犬鳴山修験大先達による指導のもと、犬鳴山の行場や拝所の回峰、行者の瀧での瀧修行などの修行を体験できます。※12月から2月は実施しておりません。※体験には事前予約が必要です。10日前までに、犬鳴山七宝瀧寺HPの申込フォームかFAXにてお申込みください。
問合せ / 072-4590-7101
参加費 ¥8,000
<http://www.inunakisan.jp>



土丸・雨山城ってどんな城？

城ノ山（土丸山）と雨山の2つの頂上付近にあり、南北朝のころに築かれたものと思われま。紀州と和泉を結ぶ往環道に位置し、戦略上重要な土地であったこの城では、楠木正勝や山名義理、橋本正督など、有名な武将が活躍しています。今も山上には曲輪、堀切、武者かかしなどが残されています。

自然の地形に溶け込む山城跡へ

土丸・雨山城は、自然の地形を利用した防御用の要塞としての役割を果たしていた山城。土丸側・雨山側のどちらからでもアクセスできる山頂の城跡は、大阪の街や海を一望できる展望スポットとしても知られています。

土丸・雨山城跡



- 3 土丸に登る
- 2 道中
- 1 スタート!

振り返ると海が…！ 天気によければ関西国際空港も見ることができま。いろんな景色を眺望できるのが登山の醍醐味！

しばらく進むと分岐点があります。雨山に向かう道標に沿って左の道を進みます。

樫井川に架かる新前川橋を辿って阪和自動車道の下を潜り、土丸側から登山スタート！

土丸・雨山城跡
熊取町成合の雨山(312m)と泉佐野市土丸の城ノ山(土丸山、287m)の連山に、中世には土丸・雨山城がありました。紀州と和泉を結ぶ粉河街道、河内へ抜ける水間道、大木道・御幸道など主要街道の結節部に位置しており、和泉を代表する中世の山城でした。



大木の集落
頂から眺望する大木の集落は疲れを吹き飛ばす絶景。中世から熟成された文化的景観をひとりじめ。



鳥居とほころ
城ノ山の山頂には、鳥居とほころ、石碑などがあります。

犬鳴山の名の由来となる 義犬伝説

むかしむかし、猟師が愛犬を連れて山へ出かけたときのこと。一頭の大鹿に猟師が狙いを定めたとき、愛犬が突然吠えだして鹿が逃げ出してしまいました。せつかくの獲物を取り逃がした猟師は、怒って愛犬の首をはねてしまいます。すると愛犬の首は空中に跳ね上がり、猟師の頭上の木にいた大蛇をかみ殺して息絶えました。愛犬が吠えたのは、猟師を呑み込もうと狙っていた大蛇の存在を知らせるためだったのです。これを知った猟師は愛犬を手厚く葬り、自分の行いを悔いて七宝瀧寺で僧となり、後に不動堂を寄進しました。この話は都の天皇にまで伝わり、「犬鳴山」の称号が与えられたといわれます。



〔和泉名所図会〕〔犬鳴山名称の由来〕

